

《 中国コース 参加者一覧 》

都道府県	氏名	所属学校名	担当科目
新潟	石川 恭子	巻町立巻南小学校	全教科
新潟	松井 市子	新潟県立柏崎高等学校	英語
新潟	若月 安明	長岡市立脇野町小学校	国語、体育、理科、総合
長野	嶋崎 晴美	長野県立飯田養護学校	全教科
長野	湯本 英晴	長野市立三輪小学校	社会科、総合学習担当

同行者	猪熊 陽子	JICA東京(新潟県長岡市国際協力推進員)
同行者	櫻井 温子	(特活) 名古屋NGOセンター開発教育委員

平成17年度 教師海外研修 中国コース 研修日程

月日	時間	行程	宿泊地
8/2 (火)	10:25	成田空港→北京空港	北京市 (亮馬河飯店)
	16:00	「JICA事務所」訪問及びブリーフィング	
	18:00	懇親会	
8/3 (水)	09:00	「リハビリテーションセンター」視察【無償+技協】	内モンゴル自治区 フフホト市郊外 (シラムレン草原テ ント)
	11:00	「北京日本人学校」視察	
	12:00	「北京日本人学校日本人教師」との意見交換会	
	15:35	北京空港→フフホト空港(CA1132)	
	16:50	フフホト空港→フフホト市郊外シラムレン草原(マイクロバス)	
		内モンゴル師範大学音楽学院一行に合流 懇親会(中島SV、田原・松浦隊員、生徒11名、通訳2名)	
8/4 (木)	09:00	「内モンゴル師範大学音楽学院声楽講座」視察【技協(SV)】	内モンゴル自治区 フフホト市 (フフホト暇日酒店)
	13:00	フフホト市郊外シラムレン草原→フフホト市内(マイクロバス)	
	14:30	「第2次少数民族地区学校機材整備計画」視察【無償】	
		懇親会(第二中学教師及び生徒数名)	
8/5 (金)	08:00	内モンゴル大学外国語学院視察【技協(JOCV)】	内モンゴル自治区 フフホト市 (フフホト暇日酒店)
	12:30	昼食(学生食堂利用)	
	15:00	内モンゴル大学外国語学院関係者宅への訪問	
8/6 (土)	07:30	フフホト空港→北京空港(HU7176)	北京市 (亮馬河飯店)
		市内視察(都市規模:首都) ※万里の長城、天安門、故宮等予定	
		夕食	
8/7 (日)	10:30	北京空港→武漢空港(CZ3118)	湖北省 武漢市 (武漢五月花ホテル)
	午後	市内視察(都市規模:地方の大都市) ※長江、黄鶴楼等予定	
		夕食	
8/8 (月)	09:00	「日中協力湖北林木育種科学技術センター」視察【技協】	湖北省 武漢市 (武漢五月花ホテル)
		昼食	
	13:00	武漢市→潜江市(マイクロバス)	
	15:00	「日中協力湖北林木育種科学技術センター・潜江市サイト」視察【技協】	
	17:00	潜江市→武漢市(マイクロバス)	
	夕食		
8/9 (火)	08:25	武漢空港→北京空港(CA1342)	北京市 (亮馬河飯店)
		昼食	
	13:30	「中日友好病院」視察【無償+技協】	
	15:30	「日中友好環境保全センター」視察【無償+技協】	
	夕食		
8/10 (水)	09:00	「水利人材養成プロジェクト」視察【技協】	北京市 (亮馬河飯店)
	10:30	「北京市の水資源状況(永定河)」視察	
		昼食	
	13:00	盧溝橋見学等予定	
	14:00	資料整理	
	18:00	「JICA事務所」への結果報告会	
8/11 (木)	08:25	北京空港→成田空港	

平成 17 年度教師海外研修（派遣国：中華人民共和国）実践報告書

新潟市立巻南小学校
石川 恭子

タイトル：ちきゅう人とおともだち！

実践教科：音楽・図工・学活

対象：小学1年生 81 人（一部1学級 27 人）

カリキュラム案

(1)実践の目的

1年生の児童にとっては自分たちが生活している地域がすべてである。世界にどんな国があり、どんな人々がどのように暮らしているかについては考えたこともない児童がほとんどである。しかし、小さい頃から世界に目を向けることは大切である。そこで、児童の身近な存在である私が訪れた中華人民共和国について見てきたことや感じたことを伝えることで、中国に親しみをもたせ、さらに興味を世界に広げていきたいと考えた。1年生だからといって内容を選ぶことはせず、“私の事実”を伝えていく中で、児童なりに何かを感じ、考えてほしい。まずは知ること、そして親しみをもって仲良くしようとする気持ちを大切にしていけることを目的として活動した。

(2)授業の構成案

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
実践1 音楽（1+α） 「まつり花」を歌おう！ ねらい ・中国に興味をもつ。	(1)歌や踊りで交流している写真を見せる。 (2)「まつり花」中国語の歌詞で歌う。 (3)音楽の時間に毎回歌って練習する（約5分）。 (4)音楽朝会で「まつり花」を発表する。	(1)交流の様子がわかる写真 (2)「まつり花」の楽譜（5年生の音楽の教科書より）
実践2 学活（1）図工（1） お友達になろう！ ねらい ・壮行会を計画・実施できる。 ・喜んでもらえるように作品を作ろうとする。	(1)4年生の先生が中国に行くことを知り、どうしたいかを話し合う。 (2)中国の小学生に年賀状をかく。 (3)「まつり花」とメッセージを録音する。 (4)中国に行く先生の壮行会を計画・開催する。	・年賀状（画用紙） ・カセットテープ
実践3 学活（2） ちゅうごくからこんにちは！ ねらい ・担任の体験を通して、中国の様子や JICA の活動などについて知る。	(1)教師海外研修の旅行記を見る。 ・ JICA 中国事務所の様子と活動の様子 ・ 内蒙古自治区の様子 ・ 世界遺産について(万里の長城・紫禁城) ・ 日本と中国の過去と現在の関係について ・ 担任が感じてきたことについて	・ 研修旅行記（プレゼンテーションソフト使用） ・ 感想を書くワークシート

授業の詳細

実践1：「まつり花」を歌おう！

海外研修を通して強く感じたことの1つに、「音楽に国境はない」ということだった。中国側へのお土産として歌と踊りを発表したらどこでもとても喜ばれたことを伝えると、「どんな歌をプレゼントしたの？」「日本語の歌が通じたの？」と興味津々であった。用意した



「まつり花」を歌う1年生

曲の中に中国語で歌った歌があると伝えると、「すご〜い！」「僕たちも歌えるかな？」と関心をもった。「自分たちもやってみたい！」という声が上がったので、楽譜を配って練習した。児童は2〜3回一緒に歌っただけですぐに歌えるようになった。まだ幼いこともあり、歌詞を見ながらというより耳からの情報がわかりやすいようだった。中国独特の曲調が気に入ったらしく、普段から口ずさむ児童もいて、発音は正確ではないだろうが、あつという間に完璧に覚えるほどであった。

また、練習した「まつり花」を1年生が担当する音楽朝会で発表した。当日は、1年生が中国の歌を中国語で歌うことに他学年の児童も驚き感心していた。発表の後に、数名ではあるが休み時間に「まつり花」を教わりにくる他学年の児童もおり、学校全体へと少しずつ広がりを見せた。

1年生の児童は、中国の歌を中国語で歌えることに満足感をもち、非常に得意げで、中国に対しても友好的になっていった。

実践2：お友達になろう！

同校の教員が研修で中国に行くことになり、どうしたいか投げかけた。児童は「まつり花」で中国に興味をもっていたので、話し合いの結果、「年賀状を出す」「歌を録音する」ことに決定した。

図工の時間に、年賀はがきの形式を画用紙に印刷したものを用意し、自由にかかせた。児童は、中国の人に喜んでもらいたいという気持ちをもって熱心に取り組み、趣向を凝らして、一般的な年賀状、クラス全員の名簿、日本ではやっているものの絵などをかいていた。また、歌だけでは物足りないというので、最初に「一生懸命練習しました。聞いてください」、最後に「ありがとうございました。これからも仲良くしてください」と簡単なメッセージも一緒に録音することにした。

研修に参加する先生の壮行会を行った。プログラムやメッセージを自分たちで考え、意欲的に取り組んでいた。「まつり花」を歌ってあげ、しっかり届けてもらえるようお願いした。帰国後、自分たちのプレゼントが届けられたことを嬉しそうに聞いていた。



児童が描いた年賀状



中国に行く先生の壮行会

実践3：ちゅうごくからこんにちは！

JICAの活動や日本と中国の関係についても伝えたいと考えていたが、1年生に対してどのようにしたらいいか悩んだ。1年生の実態から、身近にいる担任が体験したことが一番素直に伝わると考えたので、旅行記をプレゼンテーションソフトで作成し、伝えた。児童が飽きないように途中で体験（儀式）やクイズを入れたり実物を見せたりしながらテンポ良く説明した。写真とは比べものにならないくらい画像が大きく映し出されるので、スクリーンに映し出すことだけでも興味をもたせることができた。

《旅行記で伝えた内容》

- ・ JICA 中国事務所：中国人と日本人の見分けが付かないほど似ていること。
中国のあちこちにたくさんの協力隊や専門家が派遣されていること。
- ・ JICA 関連施設：協力隊や専門家が実際に中国と協力してやっていること。
環境保全センターについては、環境問題に国境はないこと。
- ・ 各訪問先での交流の様子：歌と踊りはどこでも喜ばれたこと。音楽に国境はないこと。
中国の人も踊りや日本語の歌をプレゼントしてくれたこと。
- ・ 世界遺産：万里の長城と紫禁城、黄鶴楼について、成り立ちや昔話など。
- ・ 生活の様子：内蒙古自治区での儀式や食べ物、建物や店、衣類など。
- ・ 日中関係：現地高校生との意見交換の内容、日本と中国の関係について。
「過去は忘れてはいけません。でも、大事なものはこれからです。」

☆児童の反応

内蒙古自治区の村に入る儀式の体験では、それぞれの動作に意味があることを知り、実際にやってみることで、「行ってみたい」気持ちが膨らんでいった。画像が巨大なスクリーンに映し出されることによって、中国にいるような感覚になり、草原のきれいな朝焼けの景色に感動していた。また、実物の股割れパンツを見て触って、仕組みを知り驚いていた。

日中関係については、「昔、戦争をして、中国人も日本人もたくさんの方が悲しい思いをしました。まだ戦争のことを怒っている人もいます」と伝えた。その後、中国の高校生の意見を紹介したり、私が関わった人々が優しかったことを伝えたりした。それまで股割れパンツや写真に大喜びだった児童も、この時は真剣なまなざしで話を聞いていた。

旅行記には、上記のように伝えたいことがたくさん詰まっていたので、焦点がぼやけてしまったかもしれない。しかし、「私自身が仲良くなってきたこと」を繰り返し伝えてきたので、「中国の人と仲良くしていきたい」という気持ちが芽生えてきた。実践3の後の感想には、「最初、先生が中国に行くの心配だって言ってたけど、中国の人と仲良くできてよかったですね」「中国へ行っている人々と友達になって、いろんなことを私たちに教えてくれてありがとうございました」「昔戦争していたのに、優しくしてくれたのですごいと思いました」「中国と日本は昔戦争をしていたんだって。でも今は仲良しなんだって。一緒に勉強もしているんだって。ぼくも中国と友達になりたいな」と書いてあった。児童なりに日中関係を考えている姿に感心した。

所感・反省点・今後の改善点

最初に中国の歌を歌う活動を行ったのは、1年生の児童にとって無理なく中国に興味をもたせるには有効であった。また、体を動かすことや視覚教材、五感を使える実物も有効であった。研修でたくさん購入してきたが、1年生が喜んだり驚いたりするものは少なかったため、今後は他の学年で活用していきたい。

日本と中国の関係について知り、児童なりにこれからどうしていきたいかしっかり考えていた。難しい問題だが、投げかければ児童なりに一生懸命考えることがわかった。すぐ忘れてしまうのも事実だが、そこに成長のチャンスが隠れているのだと実感した。そして、私たち大人が考える機会を与えることが大切だと感じた。

当初の予定では、内容を細かく分け長期的に少しずつ伝えていくはずだった。つながりのある内容を長期的に学習していくことで、世界に目を向ける姿勢が身に付くと考えたからである。しかし、実際は1つ1つの実践が完結してしまい、しかも間隔があいてしまったので、児童の意識も途切れがちであった。その点で今回の実践は、世界に目を向けさせられたが、世界に対する意識が定着したとはいえない。もっと見通しをもって計画的に進められれば、より充実した実践になったと思う。

私が仲良くなってきた中国に対して、児童はとても親近感を持っている。特に親しくなったJICA職員の話をしたら、応援のメッセージを贈りたいという声が上がった。今後、JICA中国事務所と連絡をとって実行したいと考えている。



「中国のレストランです」



スクリーンの画像に興味津々。



真剣に話を聞く児童。



股割れパンツ



内蒙古自治区の青い布

平成17年度教師海外研修（派遣国：中国）実践報告書

新潟県立柏崎高等学校
松井 市子

タイトル：民族の共生と平和
実践教科：英語Ⅱ
対象生徒・学年：2年生
対象人数：39名

カリキュラム案

(1)実践の目的

- ・教科書の読解を通して、少数民族がどのような課題を抱えているのかを理解させる。
- ・教科書の内容を発展させて、他の少数民族について考えさせる。
- ・日本人としてのアイデンティティを意識する機会を持たせる。
- ・将来的に個人単位で何かを実行していくきっかけとなる授業を展開する。

(2)授業の構成案

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1限～6限目 テーマ：アボリジニの歴史と現状を知る ねらい：英語での理解	教科書などを用いた英語の読解で、シドニーオリンピックで活躍したキャシーフリーマンの物語を通して、アボリジニの歴史・現状を理解する。	(1) 教科書 (2) 予習ノート (3) ワーク (4) 授業プリント
7限目（本時の内容） テーマ：①文法事項の確認 ②人権問題について考える ねらい： ①学習した文法事項の定着 ②社会問題に目を向ける	(1) 確認テストを用いて、内容理解と文法事項の理解を図る。 (2) 英語の時事雑誌を使用して、Amnesty International 及び日本・世界の人権問題について考える。 (3) 日本語でまとめる。	(1) テスト (2) English Journal 9月号 (3) 授業プリント
8限目 テーマ：アイデンティティについて意識を向ける ねらい：自分を見つめなおす	(1) 前時でまとめた内容を発表する。他の班の発表を聞いて、自分の意見をまとめる。 (2) 教師が体験した中国での経験を聞く。 (3) 自分の意見をまとめる	(1) ビデオクリップ (2) フォトランゲージ (3) 授業プリント

■ 7限目までに使用した教材

【高校英語Ⅱテキスト及び付属教材（桐原書店）】

- ・ Pro-vision English CourseⅡ ・ 予習サブノート ・ Workbook (Advanced) ・ 音声教材

【教科書関連教材】

- ・ 授業プリント ・ 小テスト ・ アボリジニ関連図書 ・ アボリジニ民芸品

【教科書発展教材】

- ・ English Journal (2005, 9月号 発行社：(株)アルク) ・ 授業プリント ・ テスト

■ 授業展開

- ① 復習：教科書で学んだ内容に関するテスト、また重要文法事項に関するテスト（出版社のものを使用）（15分）
- ② プリント配布：English Journal 9月号で取り上げられた” Amnesty International”に関する記事と Japan Times のアイヌに関する記事” Fact and fiction meet in recreation of Ainu past”を生徒に配布する。（5分）
- ③ グループ活動：クラスを5～8人の6グループに分け、それぞれの班が割り当てられた箇所の英文を日本語にまとめ、その際気になった1文を選ぶ。（30分）
- ④ 次回の連絡：次回の授業で、各班3分で発表できるように準備を進めておくよう指示する。また、発表の最後に自分たちの印象に残った1文を英語で3度音読するように指示をする。他の班は、発表を聞きながらその班の発表内容をさらに日本語でまとめ、最後の1文を聞き取るようにする。最後に、授業を受けたあとの自分の意見を日本語でまとめる。その際、最低1文は英語で感想をまとめる。

■ 生徒の反応（授業後の感想より）

・私は今日の授業まで、勉強は自分のため、将来幸せに暮らすためにするものだと思っていました。そして先輩と同じように、勉強をしてこなかった人よりも良い生活を送るべきであるのは当たり前なことだと考えていました。しかしそれでは生活やお金は豊かになるけれど、心は豊かではないと考えさせられました。私たちが社会を変え、より良い生活をみんなに提供するには、何をすればよいのか考えたところ、以前読んだ本に「今の日本は、大人が勉強をしなくても良いかのように振る舞い、勉強している人が悪いかのような風潮になっている」とあったのを思い出しました。中学校のときに勉強を頑張っているのに片身が狭かったのを思い出しました。だが、私は具体的に何をすればよいのかわかりませんが、頑張っている人が思う存分頑張ることの出来る社会を作りたいです。

・人種問題などは本当に難しいものだと思います。アムネスティの人々は、人の人権を奪った人にも人権はあるといいますが、私はすんなりとそのように考えることは出来ません。でも人が人を殺すことはしてはいけないことだと思います。先生の考えも聞いて、確かに努力していない人が得をするのはいい気がしないけれど、私は努力して、何かを動かせる人になれたらいいと思いました。

・今まであまり「人権」について深く考えたことがなかった。しかし今回、各班の発表を通して、世界中の人々に人権は認められているが特定の地域の貧しい人々や重病を抱えている人に対する差別などは彼らだけでなく世界中の人々がみんな考え直さなくてはならない人権問題だとわかった。また、「人権」のあり方を考え理解し、積極的にそれらの問題と向き合うことが大切だと思った。死刑制度があっても犯罪は増えていると知って、今までは死刑はあるほうがいいと思ったが、少し考えが変わった。

・アムネスティ・インターナショナルの説明を見て、「死刑の廃止」や「人権問題」を深く考える時間を持てた。死刑については中学から、いろいろと考えさせられることもあったが、この文章を読んでも、先生の話からよく考えても、やっぱり死刑は廃止しないでほしいと思う。なぜかという殺させた人の人権は、殺した人に奪われてしまったのだから、その人の人権がなくても弁解の余地はないと思う。でも、差別や先生の話を知ると、自分の考えはイラク戦争を始めたアメリカや戦争時の日本に似ているのかなとも思う。

・オーストラリアのように日本もアイヌ人もまた朝鮮、中国などと和解できる日が来るのではないかと思う。そのためには国家間でもお互いの意見を尊重し、考えて、少し譲ることが必要になる。今の国会では譲ることは不可能だと思うので、これから先私たちの世代になってからでもいいので譲り合えるようになっていけたらいいと思う。

■ 評価に関して

毎時間行う小テスト、授業後のまとめテスト、提出物で評価を行った。発表の仕方に関しては、声の大きさ・伝え方、役割分担、内容のまとめ方、時間配分、を各5点計20点満点で、グループごとに評価した。自己・他者評価を入れる予定だったが、指示が徹底していなかったのか、未記入の生徒もいたため、今回は教師の評価のみ入れた。

■ 所感・反省点・今後の改善点

海外研修で入手した教材を独立して総合学習やホームルームなどで使用するのとは可能だが、継続的に自分の教科指導において教育活動に取り入れていきたいと思っていたので、あえて海外研修で入手した教材以外のものを使った授業実践を報告させてもらった。生徒の反応はよく、感想の中には「まとめや発表の時間がもっとほしかった」「人権問題は難しすぎる」という意見もあったが、多くは「普段の生活を考え直す機会となった」「もう一度やりたい」など世界から見た日本の状況・日本人の倫理観、また個人としてのアイデンティティと向き合う機会にはなったようだ。ではどのような行動変容があったかという点、すぐに目に見える形で現れてこないし、感想も一般論で終わっているものが多かった。継続的にきっかけを与えていく必要があると感じた。国際協力に興味を持った生徒が1~2人いることが励みになっている。全員に変わることを期待するのではなく、ひとりでも多くの人に自分の感じたことを伝えていくことが大切なのだと（今は）思っている。

【7限目で使用した授業プリント】

2-2 No.() 名前 ()

1. The Hallmark of Amnesty
2. “Put Your Own House in Order”
3. Capital Punishment
4. Comfort Women
5. Giving a Voice to the Voiceless
6. Fact and fiction meet in re-creation of Ainu past
7. My own idea

【8限目で使用した写真】



内モンゴルでの歓迎



内モンゴルでの歓迎



内モンゴル大学での日本の紹介



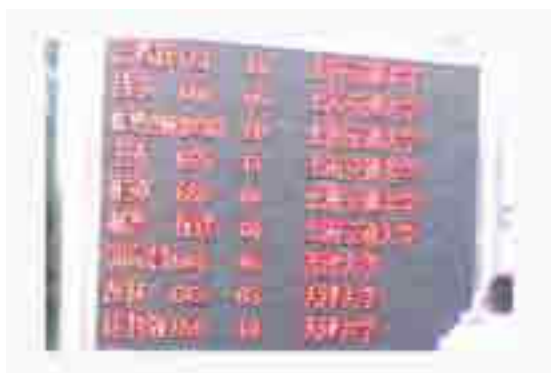
変わる町並み



変わる町並み



長江



成績公開



JICA 協力隊

平成 17 年度教師海外研修（派遣国：中華人民共和国）実践報告書

長岡市立脇野町小学校
若月 安明

タイトル：文化の違いを調べてみよう！

～ “巨竜” 中国 & “巨象” インドとの「テレビ会議」を通して～

実践教科：国語（時間数：21 時間）

対象学年：4 年生

対象人数：58 人



カリキュラム案

(1)実践の目的

- ① アジア諸国との文化や生活の違いに関する課題をもち、それを調べたり、追究したりする。
- ② 日本に大きな影響を与えた中国文化との共通点や相違点を内蒙古大学生とのテレビ会議を通して膚で理解する。
- ③ 同じアジアに学ぶデリー（インド）の小学生とのTV会議を通して文化や生活の共通点や相違点を考える。
- ④ 隣国である中国を中心としたアジア諸国との文化や生活の違いについて知り、それを尊重しようとする態度を培う（多文化共生の目を養う）。

(2)授業の構成（全 2 1 時間）

次（時間）・ねらい・月／日	内 容	使用教材&資料
第1次（1） 11／11 中国はどんな国なのかを知る	(1)JICA 中国研修の話聞き、中国の概要を知る（文化、簡体字、トイレ、学校生活、ヒット曲、食べ物、物価、他）。 (2)内蒙古大学について知り、TV 会議に向けての見通しをもつ。 (3)JICA が中国で行っている支援を知る。	・中国で撮影した写真やビデオ ・中国で買った音楽 CD ・中国語の HP（漫画、ヒット曲、地図） ・グーグルアース（呼和浩特地形図） ・中国地図、中国の教科書 ・中国からの受信メール
第2次（5） 11／14～11／17 教材文を読んで日本と外国との文化・習慣の違いに着目し、各国が生み出した文化に関心をもつ	(1)教材文「手で食べる、はしで食べる」を読み、各国の人々は自国の文化から生まれた知恵を生かして食事をしていることを学ぶ。 (2)気付いたことや追究したいことをイメージマップにまとめる。	・小学校国語4年下（学校図書）&ワークシート ・中国からの受信メール
第3次（2） 11／21 モンゴルの生活を知る	(1)NPO「大地と人」飯塚さんの話を聞く。 (2)飯塚さんへの質問&回答。	・ウランバートルで撮影した写真 ・モンゴルの音楽・帽子 ・世界地図
第4次（2） 11／24 TV 会議の準備をする	(1)飯塚さんへの礼状書き。 (2)中国 TV 会議の問答練習、リハーサル（中国語での自己紹介）。	・留学生からの手紙（中国情報、児童名の簡体字・発音） ・TV 会議参加学生プロフィール
第5次（1） 11／28 内蒙古大学外国語学院 日本語学科学生と TV 会議を行う	(1)挨拶（双方）。 (2)お互いの国や地域の紹介。 a.脇野町小学校の紹介。 ・活動・文化 ・自然・地理・歴史 ・日本・新潟	・TV会議（m s n メッセージャー） ・内蒙古大学から送られてきた写真 ・中国で撮影した写真 ・HP（国や地域の紹介）

	b.内蒙古大学生の紹介。 ・草原 ・料理 ・ナーダム（競馬、相撲、弓） (3)内蒙古大学生への質問。 （食事、流行、生活、子ども、自然、伝説等） (4)内蒙古大学生からの質問。 （中国の印象、夢、塾、勉強方法、趣味等）	※当日は2つの新聞社の取材あり（新潟日報・長岡新聞）
第6次（3） 11/29～11/30 留学生との交流に向け調べ学習を行う	(1)TV 会議の振り返り。 (2)交流する留学生の出身国に関する調べ学習。	・HP ・参考図書
第7次（2） 12/2 長岡技術科学大学の4カ国の留学生と交流活動を行う	○中国、モンゴル、韓国、マレーシアの4グループに分かれて、留学生と交流する。 ・中国～お話&歌（北国之春・后来） ・モンゴル～お話&モンゴル文字&遊び ・韓国～お話&料理作り（トックポッキ） ・マレーシア～お話&ジャンケン・遊び	・中国～中国語の歌（北国之春・后来）&中国に関連するクイズ ・モンゴル～PC（パワーポイント）&モンゴル音楽 ・韓国～料理の食材 ・マレーシア～PC（パワーポイント）
第8次（3） 12/5～12/6 文化の違いを発表する	(1)留学生への礼状書き。 (2)留学生から学んだことを数人でまとめ、少人数グループ内で発表する。 (3)インド TV 会議の準備&練習。	・デリーから送られてきた発表内容（ローマ字）
第9次（1） 12/9 デリーの小学校と TV 会議を行う	(1)挨拶（双方）。 (2)インドの紹介&クイズ。 (3)長岡市&脇野町小学校の紹介&クイズ。 (4)日印対決！（豆移し競争・計算競争）	・TV 会議（m s nメッセージャー） ・デリーから送られてきた写真 ・HP（デリーの写真）
第10次（1） 12/12 学びをつなげよう！	○単元を振り返り、学んだこと・気付いたこと、今後行いたいことをまとめる。	・単元の活動写真&イメージマップ

授業の詳細（主な活動）

【第1次】JICA 中国研修視察の話

〔子どもたちが強烈に印象に残った写真ベスト3〕



蛙の料理



ドアのないトイレ



サソリの料理

「文化の違いを調べてみよう」という単元全体への耕し、及び内蒙古大学生とのTV会議に向けた情報提供と意欲付けをねらって中国で見聞したことを中心に映像を提示しながら話をした。

子どもたちにインパクトがあったのは、食事やトイレなどの日常的な写真であった。また、「ドラえもん」「名探偵コナン」「スラムダンク」「ちびまる子」などの日本の漫画、「未来へ」「島唄」などの日本の歌が中国語に訳されて人々に親しまれていることを知り、今までは、近くて遠い国ととらえていたが、身近に感じる子が増えた。日本人と似た顔立ちの中国人が日本語を上手に話していることにも驚いていた。あまりにも簡単にしすぎた簡体字を見て笑っている子もいた。

<子どもたちの感想 ～中国の話聞いて～>

- ・変わった物が多いと思ったが、ケンタッキーなどもあって日本と似ているところが多く驚いた。
- ・サソリ、虫や蛙などの変わった物を食べていて驚いた。本当においしいのだろうか？
- ・食べ物の種類や量が豊富だと思った
- ・30円くらいでおいしい物を食べられて羨ましい。
- ・おいしそうな料理だが、虫は食べたくない。
- ・外で色々な食べ物が売られていた。
- ・日本のハンバーガーとはかなり違ったものが外で売られていた。
- ・中国の漢字（簡体字）は日本の漢字より簡単で書きやすい。
- ・面白いことをたくさんする国だ。
- ・中国の人によさこいを見せたい。
- ・男子トイレに便器がなくて驚いた。
- ・トイレに紙がなく、流すこともできないので次に使う人は大丈夫なのか？
- ・中国のタクシーが自転車のようなだった。
- ・貧しい国だと思ったが結構いい国だった。
- ・中国はきれいな所だと思い、住んでみたくなった。
- ・早くTV会議をしたくなった。
- ・日本のことを好きな人もいると聞いて驚いた。私も仲良くしたい。

【第3次】モンゴルの生活・文化を知る

NPO「大地と人」の飯塚さんを講師に迎え、モンゴルに魅せられ、4回モンゴルへ行き、ストーリーチルドレンの支援などの活動をしている話を聞いた。翌週、TV会議を行う中国・内蒙古自治区とモンゴル（「外蒙古」とも呼ぶ）とは隣接していて、第2次世界大戦までは1つの国であった。生活・文化とも共通しているところが多い。

当日は、2005年夏のモンゴル・ウランバートル訪問時の写真を見せてもらいながら、人々の生活の様子や日本との文化の違いについてエピソードを交えながら楽しく語っていただいた。また、帽子をかぶせてもらったり、挨拶を教えてもらったりした。学校に行かずに、ごみの山からお金になるものを拾う子どもの写真には、ショックを受けていた4年生が多かった。

後半は、モンゴル音楽を聞かせてもらったり、質問に答えてもらったりし、日本との生活・文化の共通点や相違点を考えることができた。



モンゴル人はこんな帽子をかぶっていますよ。



「サインバイノー」は、「こんにちは」という意味です。

<子どもたちの感想 ～モンゴルの話を聞いて～>

- ・馬の糞を肥料にしていると初めて知った。
- ・朝、学校へ行く前に水くみをしてすごい
- ・モンゴル人はのびのび暮らしているようだ。
- ・モンゴルは冬になると-30℃になるので寒そう。
- ・馬が多くて、楽器もたくさんあって楽しそう
- ・羊が人間の数よりも多くてびっくり。
- ・私たちみたいに幸せになることは結構難しいことだ。親のいない子がかわいそうだ。
- ・学校に行けない子どもたちがリサイクルごみを拾っていて驚いた。私たちが何かできないか。
- ・帰る家のない子は、朝や夜、冬は寒そうでかわいそう。
- ・草原のごみを減らしてほしい。
- ・馬乳を飲んでいることを初めて知った。牛乳と馬乳とを飲み比べてみたい。
- ・カルシウムが多く含まれている馬乳を飲んでいるので、モンゴル力士が強いと分かった。
- ・馬で移動する遊牧民族がいることが分かった
- ・馬を大切にされていて、友達みたいだ。
- ・モンゴルの人口が新潟県と同じくらいで驚いた。
- ・外で用便をするのははずかしくないのか。

【第5次】中国・内蒙古大学外国語学院 日本語学科3年生とのTV会議

本単元と関連させ、TV会議を行えないかと帰国直後の9月から中国でお世話になった方々に打診した。日中関係が不安定なことや技術・設備的なこともあってなかなかよい返事をもらえなかった。そんな10月下旬に、8月に直接現地で交流した内蒙古大学関係者から応諾していただいた。

MSNメッセンジャーを双方でダウンロードし、こちらから郵送したPCカメラで接続実験した際には、音声しかつながらなかった。その後、いろいろと原因を探り、何回も接続実験を繰り返した。中国側の担当者には、知人からPCカメラを借りてもらい、3台目にして初めて「音声・画像」ともつながった（いざという時のために、skypeでも通話できるように準備もしておいた）。

TV会議に向け、担当者同士で約1ヶ月間メールを使って細かな進行プランや分担などを打ち合わせた。

当日は、「メールで送られてきた写真」と「PCカメラ」のライブ画像をそれぞれ2台のプロジェクターで投影しながらTV会議を行ったことはとても効果的であった。

子どもたちは「你好，我叫****，請多・照」と中国語で自己紹介をしてから会話に入った。

4年生58人全員を参加させるのは、時間的にかなり無理があった。また、相手の話す内容をある程度子どもたちが把握していないと詳細の意味が通じない場面もあった。だが、事前に原稿を作り、日本語で流暢に語りかける大学生の姿に子どもたちは感動した。後半の質問の時間は、「日本は～ですが、中国では〇〇は、～ですか？」と、日本のことを先に話してから尋ねさせた。うまくコミュニケーションが取れて大いに盛り上がった。夢にまで見た初めてのリアルタイムでの国際交流ができ、児童は大変満足そうであった。

参加した内蒙古大学生は3年生8名。そのうち、8月に直接交流した学生が4名もいて旧交を温めることもできた。約80分間、音声も画像も途切れることなく、TV会議を行えた。



内蒙古大学生に語りかける4年生。



主食・ペイズについて紹介する女子学生さん。



8月に交流した際の学生の写真も並べて提示。



真剣に会話を聞く4年生。



ホイツアイ～豚肉・白菜じゃがいも・豆腐・麺。



簡体字で書いた名前を胸に張って話す4年生。

〔TV会議に参加した内モンゴ大学生の主なプロフィール〕（上4人女子学生、下4人男子学生）

名前	出身地	民族	趣味	夢	質問事項
宋	内モンゴ 呼倫貝爾	漢族	旅行、球技	世界一周 すること。	中国について知っていること。休日したいことは何か。国語の勉強方法。
鄭	内モンゴ 巴彥淖尔	漢族	音楽、スポーツ、 小説、ビリヤード	翻訳者 世界旅行。	遊びは好きか。1日の遊ぶ時間は？どんな遊びがあるか。将来の夢。
蔣	陝西省 銅川	漢族	バレー 料理	日本旅行。 会社設立。	中国に対しての印象。
武	内モンゴ 包頭	漢族	スポーツ	旅行。	中国について知っていること。
包	内モンゴ 通遼	蒙古族	バスケット、音楽 鑑賞	日本留学	父親はお金持ちか。趣味は何か。
胡日	内モンゴ 赤峰	蒙古族	サッカー	日本留学	日本の大学生の勉強方法、生活。
那	内モンゴ 烏蘭浩特	蒙古族	乗馬 バスケット	民族に尽 力	日本にいる留学生の生活について。いじめられたことがあるか。
連	内モンゴ 通遼	蒙古族	ビリヤード	飲食、睡眠	勉強は好きか。塾に行っているか。



<子どもたちの感想 ～内蒙古大学生とのTV会議について～>

- ・中国に日本のアニメがたくさんあり、胡日さんがナルトというアニメが好きでびっくりした。内蒙古は寒いと-30℃にもなると聞いたが、雪が10数cmなのにどうしてそんなに下がるのか不思議だ。中国人は寒さに耐えられるのか心配だ。
- ・中国の一人っ子政策は、場所によって違いがあるようだ。
- ・七夕が中国でも有名な伝説だと初めて知った。内蒙古の草原はきれいであそこでサッカーをしたり、寝転がったりしたい。
- ・中国は暑そうで暖房がないと思ったが、新潟よりも寒そうだ。(南は暖房はない。) こたつはないが、お湯を入れて暖房すると聞いて驚いた。ピザや肉まんなどがおいしそうで食べに行ってみよう。
- ・中国の文化がよく分かった。特に、「ベイズ」が主食で、通学途中に買って食べるということを知った。
- ・中国については、中華まんくらいしか知らなかったが、新しくたくさんのが分かった。
- ・中国は辛いイメージがあったが、甘くて辛い地方もあることが分かった。冷凍食品もあると知った。
- ・リハーサルよりも緊張したが、学生さんは笑わないで受け入れてくれてほっとした。とてもいい経験になった。
- ・新潟県のことを紹介した後、「新潟のことがよく分かりました」と言われ、本当に嬉しかった。



4年生とTV会議中の内蒙古大学生

【第7次】4カ国の留学生（長岡技術科学大学）との交流活動

本単元の今までの学習を生かし、異文化を理解し共感する楽しさや重要性を知り、国際感覚を養うことをねらって、長岡市国際文化課の「世界が先生—国際人育成事業」を活用し、長岡技術科学大学のアジア4カ国出身の留学生と交流活動を行った。これは、各国出身講師が自国の文化、歴史、習慣などを紹介し、自分自身について語り、また子どもたちと一緒に遊んだり踊ったりすることによって進める事業である。

事前に、交流する留学生の出身国について、図書やインターネットで調べ学習を行ったので、多少の予備知識はあった。が、実際の留学生の話と出身国の写真は真に迫るものがあり、子どもたちを大いに引き付けた。日本では考えられないような生活・文化について聞き、子どもたちは驚きの連続であった。

交流活動は、常に和やかな楽しい雰囲気での学習が進められた。留学生から直接、話を聞いたり、質問をしたりする中で、その国やその国の人々を身近に感じ、親しみが生まれた。お話を通し、今まではぼんやりとしたイメージしかなかった近隣国について、より身近に感じ、これから友好を深める必要性を感じたようであった。また、ジャンケンや遊び、文字や料理を実際に体験したことは、外国への興味・関心を広めるきっかけとなったと感じている。素晴らしい人柄の留学生たちとの生の交流を通して、日本とつながりが深いアジアの文化を膚で理解した子どもたちは、その後の海外のニュースや様々な番組と関心をもって見るようになった。

短い交流時間を有効に利用するために、教師が留学生とさらに綿密に連絡を取りながら、さらに目的を明確にした交流計画を立てておく必要があった。また、ここで生まれた外国への興味・関心を持続させ、自国の文化への誇りを育てていくために、普段から身の回りの生活や文化について考える機会を与え、広い視野をもたせていくことが大切であると感じた。



礼状渡し後に留学生と記念撮影



中国語で歌った「后来」(劉若英 (レネリユウ))
→全校児童に披露&内蒙古大学生にメールで送付



モンゴルの遊びを一緒に楽しむ子どもたち。
(くさり ぼくの友達はだれ? 鬼ごっこ・輪)



韓国国の若者に大人気なトックポッキ作り。



マレーシアのじゃんけんを楽しむ子どもたち。

<子どもたちの感想 ～「留学生との交流活動」について～>

- ・中国で縁起がいいものはりんご・みかん・魚、縁起が悪いのは梨・にんにくだと初めて知った。
- ・中国の子どもたちがお正月に「福」を逆さにして玄関に飾り、爆竹で遊ぶと聞いて驚いた。
- ・中国で乾杯したら最後まで飲まなければいけないときいてびっくりした。
- ・モンゴルでゲルに右足から入る理由は、うらみがないとはっきりさせるためだと分かった。
- ・教えてもらったモンゴルの3つの遊びを家でもやってみた。タックルしても鎖は切れなかった。
- ・モンゴル語で挨拶を覚えてもらい、自分の名前をモンゴル文字で書いてもらってよかった。
- ・韓国までの実際の距離が分かってよかった。韓国料理が食べられてよかった。
- ・日本と全然違ったマレーシアのじゃんけんは、やってやりにくかったが、遊びがすごく楽しかった。
- ・マレーシアのフルーツは面白くて、見たことのないもあった。ココナッツジュースも飲んでみたい。

《中国人の留学生からのお返事》

こんにちは。皆さんが書いてくれたお手紙を頂きました。本当にありがとうございました。中国のことをよく理解してくださり、とてもうれしいです。テレビ会議や留学生との交流などを通じて、皆さんは日本にいながら、異文化を身近に感じることができ、とても恵まれていますね。

12月2日授業後、ある女の子から1枚のメッセージをもらいました。「中国と日本がもっと仲良しになればいいですね」という素朴で真心を込めた言葉に感銘を受けています。民間交流に熱心な先生をはじめ、皆さんの姿から両国の明るい未来が見えてきました。

私も微力ながらも、日中友好の架け橋になるようがんばります。

それでは、皆さんの成長とまたどこかでお会いできる日を楽しみにしています。

【第9次】インド・ニューデリーDPS 小学校（3校）日本語コース学生とのテレビ会議

教材文に「感触を楽しみながら手で食べる」と書かれているインド文化との共通点や相違点をTV会議を通して膚で理解することを目的にインドの首都デリー(ニューデリー)にある名門校 DPS グループの3つの小学校と TV 会議を行った。

事前にインド側の発表内容がローマ字で書かれたものを送ってもらったので、子どもたちに印刷して配布したが、予備知識が不足していたり、インド側のカメラの調子が良くなかったりしたため、聞き取りにくいところもあった。だが、名所（ラル・クウィラ、クトゥブミナール、インド門、ジャンタルマンタルなど）や、よく知っている動物（ライオン、象、駱駝、虎、孔雀）について紹介してもらったこともあって楽しい 80 分間であった。会話は双方とも日本語で行われ、インドの学生たちの流暢な語りや「しゃぼん玉」の歌に、児童は驚いていた。

日本側のプレゼンテーションは画像も音声も明瞭だったそうであるが、DPS 3校の児童には日本語の聞き取りは、難しかったようである。

「豆移し (30 秒)」と「計算の競争 (2 桁の掛け算；5 問)」は両国の児童とも大変喜んでいて、インド (DPS) との初めての会議は、大成功であった。



動物クイズ（駱駝）を聞く当校4年生



駱駝の模型を持って紹介する DPSI 小学校児童



日本からの映像を興味深く見るデリーの児童



デリーに写し出された日本の PCTV 画像



インドとの豆移し競争 (30 秒)



インドとの計算競争 (2 桁同士 5 問)

<子どもたちの感想 ～ニューデリーDPS小学校とのTV会議について～>

☆インドやインドの小学生について新しく学んだこと&気づいたことは？

<動物>

- ・孔雀と駱駝が人気ある。
- ・孔雀は少し空を飛べる。
- ・駱駝は1週間くらい水を飲まなくても平気、1回に200リットルの水を飲む。
- ・珍しい動物はライオン
- ・たまに町で象・虎・牛を見かける。
- ・インド象は70年近く生きる。

<学校>

- ・給食がなく、弁当持ち？
- ・リレーはインドでもある。ランニングもある。
- ・日本語がとても上手。
- ・インドの冬休みは短い。
- ・インドには色々な遊びがある。
- ・踊りが好きな人が多い。
- ・（夏休みには）宿題が多い。
- ・バドミントンやバスケットボールなどで遊んでいる子が多い。
- ・フラフープやマットがある、グラウンドもある。

<文化・生活>

- ・高く古い建物がたくさんある、きれいだ。
- ・飛行機からクトゥブミナールがきれいに見える。
- ・デリーの真ん中にインド門がある。
- ・インドの人は頭の上に物を乗せている。
- ・インドには28州ある。
- ・デリーには古いお城がある。

☆TV会議で、うれしく思ったことは？

- ・「しゃぼん玉」の歌をインドの子どもたちから歌ってもらった。
- ・豆移し競争で2連勝したこと。
- ・インドでも日本と似た諺が使われている。
- ・長岡や三島のことを知ってもらえて嬉しかった。
- ・TV会議のためにわざわざ3つの学校が集まってくれて嬉しい。
- ・見せてもらった模型がすごくきれいだった。
- ・日本語が上手で聞きやすかった。

☆TV会議で、残念だったことは？

- ・クイズの問題が難しすぎて答えてもらえなくて残念。
- ・クイズで正解されてしまった。
- ・校歌を歌って聞かせてあげたかったが、時間がなくて残念。
- ・やや声が聞き取りにくかった。
- ・内蒙古大学生（11/28）とのTV会議の時よりも画面がはっきりしなかった。

【第10次】「文化の違いを調べよう」の学習を振り返り、今後は？

単元の最後に今までの学習を振り返り、今後行いたいことを出し合った。

<やりたい!>

- ・各国の料理を作りたい。
- ・その国の楽器でその国の音楽を演奏したい。
- ・駱駝に乘りたい。

<交流したい!>

- ・一緒に歌を歌いたい。

- ・色々な競争をしたい。
- ・遊びを紹介したい。
- ・手紙やメールを送りたい。
- ・違う国とも TV 会議をしたい。

<知りたい！&調べたい！>

- ・食べ物について知りたい。
- ・はやっていることを知りたい。
- ・モンゴルのゲルについて調べたい。
- ・中国の米の種類と名前。
- ・中国の簡体字を詳しく知りたい。
- ・外国の伝説を知りたい。
- ・本やインターネットで調べたい。
- ・各国の挨拶、服装について調べたい。
- ・外国の乗り物を調べたい。
- ・他の国の文化を調べたい。

<行きたい！>

- ・外国に行ってみたくなった。
- ・砂漠に行きたい。
- ・動物の多いインドに行ってみたい。
- ・TV 会議をした中国&インドに行ってみたい。

<伝えたい！>

- ・外国のことを新聞やホームページにまとめたい。
- ・児童朝会で全校に発表したい。

他の学年での実践 ～3年生（53人）と内蒙古大学生とのTV会議～

小学校3年生国語「年の始まり」の学習では、単元の最後に「昔から伝わっている新年を迎える行事」などを調べて「いつ行うか」「行う内容」「こめられた願い」などを紹介し合う活動が組まれている。そこで、その紹介する活動相手を内蒙古大学関係者にお願いしたところ快諾を得た。

参加学生は8名。そのうち、2週間前の4年生とのTV会議に引き続いて参加した学生が2名、8月に実際に交流した学生が3名いた（内蒙古農業大学院生1名を含む）。

中国では旧暦でお正月（春節）を祝うため、学生からは“春節”の行事や習慣について紹介してもらおうようお願いした。ちなみに、“春節”の月日は毎年違って、2006年は1月29日（2007年は2月18日）である。

今回も「事前に内蒙古大学からメールで送っていただいた写真」と「パソコンTVカメラ」の画面の2つを2台のプロジェクターで投影しながら、TV会議を行った。3年生にとっては初めてのリアルタイムでの国際交流となり、着物を着て挨拶回りの実演をしたり、杵を用意し餅つきの様子を再現したりするなど張り切って準備した。当日は、約80分間、音声も画像も途切れることなく、楽しいTV会議ができ、子どもたちは大変満足そうであった。TV会議を通して、日本に大きな影響を与えた中国文化との共通点や相違点についてTV会議を通して膚で理解することができた。

【TV会議のプログラム ～内蒙古大学3年生VS脇野町小学校3年生～】

(1)両国の代表挨拶

(2)お互いの国や地域の『年の始まり』（春節）の行事」紹介

A.日本の紹介

①さいの神（実演） ②もちつき（実演：もちの食べ方） ③あいさつ回り（実演）

B.内蒙古大学生の紹介

①年末年始のテレビ番組 ②ふるさとのお正月の習慣（モンゴル族）

C.日本の紹介

①大そうじ ②お年玉 ③年賀状（実物）

D.内蒙古大学生の紹介

春節の料理・御節料理（餃子、マーボ豆腐、油炸豆腐、麻花、団子、落花生、柿餅、豆沙包、他）

E.日本の紹介

①2年参り（初もうで） ②飾る物（門松・しめ縄・鏡もち） ③歌「お正月」

④おせち料理 ⑤書き初め ⑥こま ⑦羽根つき ⑧凧上げ

F.内蒙古大学生の紹介

①春節の活動 ②春節の起源と移り変わり

(3)Q&A おしゃべりタイム……「日本語が上手な理由は？」「餅のつき方は？」他



着物を着ての挨拶回りでのお年玉を渡す実演



杵を持って餅つきの実演



年賀状の実物を紹介する3年生



「春節の活動」について紹介する学生さん



「お正月」を合唱する3年生



「書き初め」について紹介する3年生



原稿を見ながら話す内蒙古大学生さん



また、お話ししよう！

< 3年生の感想 ～TV会議の振り返り～>

☆中国について新しく学んだこと&分かったこと。

- ・お年玉が少ない……1500円くらい。
- ・臼や杵がない。
- ・丸テーブルで食事をする。
- ・大晦日に餃子を食べ、決まったテレビを見る。
- ・子どもは餃子をあまり作らない。
- ・餃子の中味は羊の肉のこともある。
- ・麻婆豆腐には肉を入れない。
- ・豆腐は縁起がよい食べ物。
- ・落花生を食べると長生きする迷信あり。
- ・お節料理はあるが、日本と中味は違う。
- ・日本と違う料理が多い。
- ・京劇は面白そうで迫力がある。
- ・中国で書き初めはしない。
- ・踊りが上手。
- ・元日は、太陽が出る前に神様に祈る。
- ・社交ダンスが好き。
- ・12月29日の夜に星が出たら、供え物をする。
- ・大晦日は自宅でなく、レストランで食べる人が多く、予約が大変。

☆TV会議で、うれしかったこと

- ・内蒙古のお正月を知れて嬉しかった。
- ・日本のことを知ってもらえた。
- ・中国の人と初めて話せた。
- ・大学生が優しく話してくれた。
- ・画像がよく写った。
- ・脇小3年生の発表をよく聞いてくれた。

＜内蒙古大学生との TV 会議の感想＞

- ・ぼくは、中国の内蒙古大学3年生と TV 会議をして楽しかったです。頑張って発表して気持ちよかったですし、大学生もうなずいてくれて嬉しかったです。発表を聞いて、色々なことが分かりました。御節料理などについて聞いていたら、日本とは違うことに気付きました。今度、内蒙古大学生から学校に来てもらって実際に本人とお話し会をしたいです。その頃まで、少し中国語を勉強しようと思います。(3年 T.F)
- ・私は、TV 会議で楽しかったことは、中国の人の発表を聞くことでした。やさしく色々な食べ物について教えてくれました。ヒマワリをいためた食べ物もおもしろいでした。私たちの発表になった時には、ドキドキしましたが、「ありがとう」や「はい」と上手な日本語で言ってくれて嬉しかったです。私も中国語を覚えて、また中国の人たちとお話したいです。(3年 Y.M)

＜内蒙古大学3年Sさんからのメール（2回の TV 会議に両方とも参加）＞

今回の TV 会議という活動はいいと思います。この活動を通じて両国の間の風俗・習慣、人々の物事に対して観点を知ることができます。特に私たちには、日本語を勉強するのに役に立つと思います。私達は今、教科書のみから日本について学んでいます。それらは硬くて、知識的なものですので、日常生活的な知識が乏しいと思います。TV 会議は勉強の一種だと思います。第1回目の小学生からの「暖房として”こたつ”はあるのですか」の質問が新しいことを教えてくれました。最近日本語会話授業から詳しく学びました。いい勉強になったと思います。日本の小学生にとっては視野が広がると思います。小さい頃から外国のことに触れて、友達を作って外国と日本の友好関係を理解することができると思います。現代化社会における日本の国際理解教育にも役に立ちます。中国ともインドと同じように小学生同士の交流ができればいいと思います。組を分け、自由にある物事について討論の形を取れば、各自が話す時間が多くなりますね。

実践全体の振り返り

JICA 中国研修で出会った“縁”をもとに、今後世界をリードしそうな中国・インドの方々との TV 会議を中心に長い単元の構成を図った。一時期、TV 会議は困難だと思えた時期もあったが、様々な方々のバックアップのおかげで、実施できた。子どもたちは、図書やインターネットからでは得られないような本物体験を味わうことで、視野が大きく広がり、自分と世界とのつながりにも目を向けたようである。今後、世界に積極的に飛び出して行き、直接自分の目で見て、耳で聞いて、自分の足でその地を歩いてみようとするための下地を作れたものと確信している。

また、個人的にも、帰国後も中国の方々との交流を継続・発展させることができ、大変喜んでいる。今後も同じ視点で、よい未来が開いていけるための方向性を探り合いながら末永く交流していけたらと思う。

TV 会議の最中には、子どもたちの馴染みのない言葉が出たり、話のつながりが分かりにくいことも多かったりしたため、教師が相手の会話内容をファシリテーショングラフィックなどにより整理し、目に見える形にするとよいと感じた。